

泉川流域の総合調査にあたって

福田 保

An outline on the survey of Izumigawa River and its watershed, Himi-shi and Takaoka-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Tamotsu Fukuda

富山県生物学会では県内の生物相を明らかにするとともに会員相互の連携と研鑽を促すことを目的として、2006年（平成18年）より共同で生物調査を実施してきた。県内を新川、富山、高岡、砺波の4地区に分け、順に比較的小規模の河川流域を中心とした地域を指定して実施している。これまでの11回は以下のとおりである。

- 第1回 2006年砺波地区 南砺市（平村）猫池
- 第2回 2007年新川地区 魚津市角川
- 第3回 2008年高岡地区 氷見市余山川
- 第4回 2009年富山地区 立山町栃津川
- 第5回 2010年砺波地区 小矢部市洪江川
- 第6回 2011年新川地区 入善町舟川
- 第7回 2012年高岡地区 氷見市仏生寺川
- 第8回 2013年富山地区 富山市黒川
- 第9回 2014年砺波地区 南砺市山田川
- 第10回 2015年県央地区 射水市下条川
- 第11回 2016年新川地区 上市町郷川

本年度（平成29年度）は氷見市・高岡市を流れる泉川を選定した。

泉川は、氷見市と高岡市の境界に位置する大師ヶ岳（だいがたけ、標高254m）の南東を源とし、急な谷を西方へ約1.0km流下し、その後向きを北に変え窪台地（田子台地）の間を国道160号に沿って約3.0km流れ、氷見市上泉で平野部に出て島尾低地帯を経て富山湾に注ぐ全長約6.0kmの二級河川である。主な支流は左岸側の小竹川（二上山の西を源として流長は約2.5km。氷見市上田子で泉川と合流）と右岸側の新川（上流に島尾大池をもち流長は約2.0km。氷見市立西條中学校横で合流）がある（図1）。

かつての泉川は上泉地区から十二町瀉（じゅうにちょうがた）に流れていたが、現在は上泉より河口までの下流はすべて人工河川である。河口部

の島尾海水浴場は砂丘が広がり、水質はもちろん白砂青松から海越しの立山連峰の美景により平成18年に環境省の「快水浴場百選」に選ばれている。丘陵にはかんがい用の多くのため池が造られているが、それでも水量不足のため五位ダム（小矢部川支流の小撫川上流に平成4年に完成）からも泉川に注水されている。宮田地区の乱橋池（みだれはしいけ）周辺は「トンボの楽園」として国の補助を受け平成7年～15年に整備され、翌16年に「乱橋池周辺のトンボと自然を守る会」が結成され、観察会や清掃活動が継続されている。流域上流部の氷見市小竹地区や高岡市西田地区はモウソウチクが植林整備され、たけのこ料理ばかりでなく農業・漁業器材、観光材料に利用されている。

宮田・島尾地区では下流部は砂州により作られた標高5～6mの砂丘が広がる一方、中流部は標高3～4mの低地のため天井川となっており豪雨時には堤防の決壊や氾濫が繰り返されてきた。調査時にも、宮田地区の泉川本流で河川改修工事がなされていた。

今回の調査項目は植物（ため池のフロラ調査、森林群落構造）、水生昆虫、底生無脊椎動物、魚類、両生類・爬虫類、哺乳類である。合同調査日は2017年7月2日と9月24日としたが、調査日の追加や調査地点・方法はそれぞれの調査グループに任せた。

最後に、今回の調査にご協力いただいた地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

（富山県生物学会副会長・企画幹事長）

引用文献

- 富山県、2013. 泉川水系河川整備計画。
http://www.pref.toyama.jp/cms_pfile/00000557/00768816.pdf. 2017年12月25日閲覧。



1. 泉川上流（氷見市小竹）



2. 上泉公民館の横（氷見市上泉）



3. 氷見市宮田



4. 河口（氷見市島尾）



5. 島尾大池（氷見市島尾）



6. トンボの楽園（氷見市宮田）

図1 主な調査場所（泉川流域）の風景